

イベントでのごみ減量についてのご提案

- リサイクル紙容器「ホッかる」を中心とした実践のごみ減量マニュアル -

株式会社 秀英
ホッかるプロジェクト

はじめに

- 「短い期間だから。」
- 「楽しいイベントだから。」
- 「手間をかけたくないから。」
- 「予算がないから。」
- 「環境イベントでは、ないから」



こう言った理由で、イベントでは、大量のゴミが廃棄されてきました。

でも、

環境問題が身近なものとなり、家庭ではごみの分別廃棄が常識になるなか、数日または数時間のイベントといえども、環境に配慮することは避けて通れない課題となっています。



しかし、多数の方が集まるイベントの中で、効率よくごみを分別し、排出ごみの減量をはかるためには、様々な工夫が必要になります。

イベントでのごみ減量の考え方から取り組み方まで。

ホッかるをご活用いただくポイント

- イベントでの「減量化メニュー」の一部として、ご活用いただけます。
- 実質的にごみの量が減るだけでなく、「回収、分別」を主催者と来訪者が楽しみながら一緒に体験できる点が、イベントに向いています。
- 特別な設備や水などを必要としません。
- 様々な規模のイベントに対応が可能です。

以下に、毎年、ホッかるを活用している、

中之島まつりや早稲田大学学生環境NPO「環境ロドリゲス」に監修いただき、このホッかるの効果的な活用方法をステップ(取り組み方)・考え方・秀英がご協力できる点に分けて整理しました。

イベントでのごみ減量化マニュアル

ステップ	参考となる考え方（中之島まつり）	秀英ができるご協力
イベント全体のごみ減量化の取り組み方針を決めます	<ul style="list-style-type: none"> ●イベント全体で横断的にごみ減量化を行うこと、ごみ減量化をイベントの企画として参加型で楽しく行う、といった方針と担当者を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●中之島まつり、環境ロドリゲスなど先進地区のノウハウをお知らせします
ごみ発生の原因を予想して減量のアクション・メニューを決めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●優先順位の高い方からいうと、各自が会場にごみになるものを持ち込まない、各自が持ち帰ってもらう一度使う、会場で集めてリサイクルに出す、残りは廃棄・焼却、の4段階で考えます。リサイクルは3番目です。実は がとっても大事。 	<ul style="list-style-type: none"> ●販売される食品に照らして適切なホッかるを提案します。
回収してリサイクルする対象を決めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●中之島まつりでは、空き缶・ホッかる・割りばし・廃棄ごみの4種類にわけています。 ●分別の種類は、回収ルートが確保できる範囲で、増やした方がよいでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●みなさんでどんなごみが出そうか、予想してみてください。 ●他地区の例をお知らせできます。
回収した資源の持ち込み先を手配しておきます。	<ul style="list-style-type: none"> ●たとえば、空き缶、紙はお近くの回収業者に依頼できます。割りばしは製紙会社に送ればリサイクルをしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●お近くの紙の回収業者の連絡先をお知らせできます。
会場内での、効果的な回収・分別の方法について工夫します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●回収場所として回収ステーションを用意します。 【ポイント】 ●回収ステーションを、会場内に適切に配置し、わかりやすく看板を出します。数はできるだけ少ない方がいいです。 ●会場内の既設のごみ箱は使えないようにします。 ●回収ステーションに、分別ボックス（ごみ箱とは言わないように！）を用意します。不要な段ボール箱でつくれます。 ●分別ボックスは分別する種類の数だけ設けます。投入口は、回収する資源がちょうど入る程度の大きさに絞り込みます。どの種類の分別 BOX か、わかりやすく絵などで示します。 ●分別ボックスには、開催中、人がつくようにして、持参した方と笑顔でやりとりします。（分別を指導する人を、グリーンスタッフなどと名づける事も大切です。） ●ホッかるを持参した方に、フィルムをはがしてもらってください。きっと感動されますよ。 ●回収率をあげるために、ステーションに持参するとくじができた、10円を返却する「デポジット」等の工夫が効果的です。 ●もちろん、食べ物売る時に、食べ終わったら回収ステーションに持参してもらうように、声がけするという連携も大事です。 ●回収した資源は、まめに袋づめて、回収ステーションにストックします。 ●イベントが終わったら、リサイクル業者に持ち込むか、回収に来てもらいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●回収ステーションの数、配置などをアドバイスします。 ●回収の工夫について、経験にもとづいてアドバイスします。 ●分別ボックスをお貸しすることができます。（ただし、廃棄ごみ、割り箸、ホッかるの分しかありません） ●この分別ボックスは市民イベントのために弊社が製作し保管しています。また別の団体が使われますので、返却時には汚れをふいてお返しください。送料は実費をご負担ください。）
終わってから	<ul style="list-style-type: none"> ●回収率、ごみ処理費用の減額幅を計算して、次の年への励みにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ●他地区の回収率を参考にお知らせできます。